

## 言葉

浦安市立浦安中学校1年 泉 唯仁

「できないことを言うよりも、まずできたことをほめてあげましょう。」

これは僕の小学生の時の担任の先生の言葉です。

僕は人よりできないことが多く、

「何でできないの」

「もっと頑張らないと」

と言われてきました。

でも、僕は何も言えませんでした。

なぜかというと、自分では頑張っているつもりだからです。

そんな時、先生が僕の母にそう伝えているのを聞きました。

先生はいつもまずできたことをほめてくれました。それは、学習面のことだけではなく、生活面でも同じでした。

みんなが当たり前に行えることでも、僕ができた時にはほめてくれました。

僕は、自分のことをちゃんと見てくれている人がいると思うと、安心感とうれしさでいっぱいでした。

僕は、中学生になりバスケット部に入りました。

小学生のころは、運動をやっていなかったもので、はじめたころは練習がきつくて全然ついていくことができませんでした。

三ヶ月たった今、ドリブルやシュートも少しずつできるようになりました。

うまくできたパスに友達が

「マンガみたいだったじゃん」

と言ってくれたり、先生がほめてくれました。

できないことや失敗することはいっぱいあるけど、たった1つできたプレーをほめてもらえることで、また次も頑張ろうと思える。

友達のプレーを見ていて、こうしたらいいのにとか思うこともあるけど、ダメなところをダメという前にまずよいところを伝えたいと思います。

人はどうしても相手の嫌なところやできないところのマイナスな部分のほうに気になってしまいます。

でも、できるだけ相手のいいところを見ようとすれば、イライラしたり嫌な気持ちになることを減らせるのかなと思います。

人が失敗をした時、失敗したことだけを言うのではなく、よかったことをほめつつ、失敗したところのアドバイスができる人になれたらいいなと思います。

ほんの少し伝え方を変えてみるだけで、自分も相手も嫌な気持ちにならずにすむと思います。

言葉はとても難しいと思います。

優しい言葉、美しい言葉は人を幸せな気持ちにしてくれます。

でも時として、人を傷つける凶器にもなります。

多くの人が携帯を持っている時代。気軽に連絡がとれたりするからこそトラブルもたくさんあります。

相手の顔が見えないからこそ、気がつかないうちに人を傷つけていることもあります。

一度言ってしまったことは消えません。

いい言葉も悪い言葉も形として残らなくても心に残ります。

何かを伝える時、まず考えて下さい。その言葉が相手を傷つけないかを。

自分自身、相手の立場になって伝えることはできていないことも多いけど、人の気持ちを少しでも考えられる人になれたらいいなと思います。

1人1人の小さな心がけ、思いやりが、傷つく人やいじめをへらしていけると思います。

そんな傷つく人やいじめがなくなっていく社会こそ明るい社会だ

と僕は思います。